

自立支援協議会部会議事録

	日中サービス支援型共同生活援助 定期評価会議	場所	長浜まちセン 1C 会議室
日時	2024 年 8 月 21 日 15:15 ~ 16:40		
参加者 (敬称略)	会長：松本、ネットワーク支援事業・就労選択支援プロジェクト：鍵弥、生活の充実部会：西山、ライフステージ専門性部会：川崎、社会資源環境部会・河井、地域生活塾プロジェクト：野寺、湖北基幹相談支援センター：宮川、しょうがい当事者代表：美濃部、湖北健康福祉事務所：野中、米原市社会福祉協議会：田中、長浜市社会福祉協議会：葛川、長浜市：富永、米原市：石河、 ソーシャルインクルーエリアマネジャー：鈴木、ソーシャルインクルーホーム長浜高月：武部、ソーシャルインクルーホーム長浜大寺：鈴木、藤村 (敬称略) 事務局：岸田・喜田 (書記)		
協議 内容	1. 会議の趣旨説明 (事務局より) ○協議の場の設置について ・日中サービス支援型指定共同生活援助事業所は、地域に開かれたサービスをすることにより、当該サービスの質を確保する観点から、地方公共団体が設置する協議会等に対し、定期的に (年 1 回以上) 事業の実施状況等を報告し、協議会等から評価を受けるとともに、当該協議会等から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければなりません。また都道府県知事が必要と認める場合には、事業所指定にあたり、日中サービス支援型指定共同生活援助を行おうとするものは、協議会等に対し運営方針や活動内容等を説明し、当該協議会等による評価を受け、その内容を都道府県知事に提出しなければなりません。 長浜市・米原市 (以下、「湖北福祉圏域」という。) において、協議会等は長浜米原しょうがい者自立支援協議会を指します。協議の場は「日中サービス支援型指定共同生活援助事業計画評価会議」 (新規指定等時、以下「事業計画評価会議」と言う。) と、「日中サービス支援型指定共同生活援助定期評価会議」 (定期報告時、以下「定期評価会議」と言う。) と言います。 (指定基準省令 第 213 条の 10、解釈通知 4 (3) ④参照) ・今回はソーシャルインクルーホーム長浜高月町とソーシャルインクルー長浜大寺町を対象に定期評価会議を実施する。 2. 参加委員 ※委員名簿参照 3. 事業所より事業報告 ※別紙 事業評価シート参照 ○長浜高月町について		

	・昨年の評価会議で頂いた意見や要望について、この1年間で取り組んできた。事業評価シートNO.2の最後の項目欄に記入している。 ・事業評価シートNO.1については、記入日から本日までに利用者数及び、職員数の変更があった。 ・1階、2階とも日勤、夜勤とも職員は2名配置の体制が整っている。 ・管理者、サビ管、職員合わせて30名が勤務している。 ・昨年の8月から今年度の7月までに離職した職員は5名。 ・自分が管理者に就任した2022年11月以降、利用者に対して「尊厳のある支援」を心がけている。入居者に寄り添い、職員に対してあたたかいコミュニケーション能力を養うための働きかけを心がけている。 ・会社全体として評価制度の運用を開始し、個々の能力を定期的に評価し、報酬において評価に基づいた結果が反映される体制になった。なかでも優れている点や、課題とされている部分を面談の場面において両方で確認することで、次につながる職場環境へと変革している。 ・昨年来課題として挙げていた地域との関りにおいて、草むしりや側溝掃除が年2回実施されているということを自治会長に聞き、職員が参加している。 ・ホーム内でのレクの機会を月に1回以上設けている。また、季節感のあるバラエティメニューや買い物外出等の機会を増やしている。地域との交流については引き続き課題が残っているが、ホームとして貢献できることを自治会長と相談しながらおこなっていきたいと考えている。 ○長浜大寺町について ・事業評価シートNO.1について、利用者の人数に変更があった。 ・昨年の8月時点では入居者が2名であったが、今年の4月に2階が開所になったこともあり、現時点で男性が5名、女性が4名となっている。少しずつではあるが圏域の中で認められているように感じている。 4. 3に対する質疑応答・助言・要望等 (委員) ・「尊厳ある関りを大切にしている」「あたたかいコミュニケーション」などの言葉があったが、具体的に尊厳ある関りはどういったものなのか。 (回答) →一番大切にしているのは、GHに入居したからといって制限されるものがあるってはいけない。その人らしい生活を送っていただけることを重要視している。寄り添う、優しく接するだけでなく、共同生活援助サービスの中でその人らしさを存分に発揮していただきながら生活するにはどうすれば良いか、生活の質が高くなるような日常を送っていただくにはどうしたらよいかを考え支援をすることが、尊厳のある関りかと思っている。具体的にいうと、不適切ケアが起こる原因として支援内容
--	---

の統一ができていないから不適切ケアが起こってしまうのではないかと考えている。月に 1 回ケア会議を実施し、その方にとって一番良い支援について共有する場を設けている。スタッフによって関りが変わることを避け、強いては虐待につながらないためにできることを統一して実施している。

（委員）

・最近意思決定支援や自己選択、自己決定が重んじられているが、尊厳の意味としてそこが押さえられているかどうか気になった。

（委員）

・サビ管の方に伝えたことが現場に伝わっていない、逆も然りという現状がある。
①リハビリの先生から補装具を作るように言われたが、GHの支援者が「そんなもの要らない」と言われた。②利用者がホームの電話を貸してほしいと訴えたが貸せないと言われた。③GHから相談員へ連絡はあるが、ご家族へ伝わっていない。④書類が担当者にあたっていない。など、前述のように事業所内の連携や関係機関との連携がうまくいかない場面が多いと聞いているがどうか。

（回答）

→①の件については管理者としても把握をしており、本人への事実確認をしたあとに注意をしている。不適切なケアや発言がないように指導していると先ほど申したが、それと反比例するような出来事も起こっているのは事実であり、管理者の指導不足だと感じている。ご迷惑をおかけした利用者やご家族、関係機関の方には大変申し訳ないと思っている。昨年の評価会議でも相談員から連絡体制の不備についてご指摘を受けていた。それ以降、事務所に設置しているホワイトボードの数を増やし、カテゴリー別に記入するようにして見落としが起きないように、また誰が見てもわかりやすいように改善した。事業所の郵便物等が届くポストのカギを空けれるのが管理者だけだったため、管理者が数日不在になると郵便物を取り出すことができないう状況があった。今現在はスタッフ全員がポストを空けれるようにしたため、郵便物を数日受け取れないということがなくなった。職員間の情報伝達がいっかりとできるように、申し送りノートの使い方を変え、管理者とサビ管、スタッフがもれなく情報共有できるような仕組みとしている。現場の担当責任者を各階 1 名ずつ配置し、管理者やサビ管だけでは賄いきれない情報等を補完するような役割としている。

（委員）

・圏域の計画相談支援専門員から聞き取りを実施している。※別紙参照
事業所の強みに関して、送迎などのきめ細やかな対応など努力や工夫をされている部分だと思われる。今後期待することとしては関係機関との連携、事業所内のハウレンソウをより徹底していただきたい。地域の貴重な社会資源の一つとして自立支援協議会への積極的な参画をする中で、横のつながりなどを強化していただきたい

い。月 1 回のケア会議を実施されていると報告されていたが、ハウレンソウを徹底するということでは、更なる工夫がなされることを期待している。

（回答）

→月 1 回実施する不適切ケア等に関する研修は全職員参加としている。全スタッフが出勤ごとにその日自分が見聞きしたこと、行動、自分が発した不適切ケアにあたるかもしれない文言があった場合には、報告するようにしており管理者へ伝わる。不適切ケア等がなかった場合にも「なかった」という報告をして退勤してもらうというシステムにしている。その報告はスマホでできるようになっている。

（委員）

・利用者の声として玄関先に車いすがない。災害時の避難等を考えると、1 台だけでも共用の車いすが常備されていると良いのではないかと。また、利用を検討されているご家族から、公表されている法人全体の資産や経営状況が良くないので、そのしわ寄せが利用者へいかないか、法人から事業所へなんかしらの圧がないのか心配だという声がある。いち事業所としてどう考えておられるのか。

（回答）

→玄関先の車いすについてはご指摘のとおりだと思うので、今後設置していく。法人全体の経営状況がいち事業所に対して影響しているかどうかについて、食事の場面で言えば、2 週間前には業者へ食事の発注をする必要がある。外泊されるかどうか決まっていない利用者があるときは、外泊しないものとして食事の発注をおこなう。結果的に外泊されたとしても、その方から食事代を請求することはしない。ホームに必要な備品やレクの用品などもたくさん購入しているが、本社から「なににつかうのか」「買いすぎだから控えるように」というような指摘は今まで一度もない。電気ガス水道に関しても、職員に対して控えるようにという指示も出していない。一番大切にしているのは、利用者の快適な生活環境の提供。

→会社全体の収益に関して、現在も次々に新しいホームを建てているという状況なので、マイナスが多くなっているのではないかと。適正な運営という視点は大事であるが、法人から指示や圧があるということはない。

（委員）

・虐待通報のシステムについて、どの職員からも市役所へ伝えられるようにすることが大事だと思われるが、昨年からは改善されているのかどうかお聞きしたい。また手順の中で明確化されているのかお聞きしたい。苦情対応について、第三者の苦情受付窓口が必要かと思うが、現状そのあたりの配置はどうなっているのか。

（回答）

→虐待対応のフロー図は、誰もが一望できる場所に掲載している。虐待等を発見した者はすぐにホームの虐待受付担当者（管理者）に通報することを基本としているが、市役所へ直接連絡することを想定したフローにもなっている。※別紙フロー図

参照。管理者が不在の場合や管理者が虐待当事者の場合には、行政へ通報していた
だくことを想定している。要望・苦情の申立先としてホームの管理者としているが、
本社や利用者の支給決定市町の窓口を明記したものをホームに掲載している。

（委員）

・虐待発見時等には市町村へ直接通報できるようにすることが基本かと思うので、
その部分を強調するような周知ができると良いのではないか。第三者の相談者は配
置していないということで良いか。

→本社に第三者の相談者として弁護士が配置されている。

（委員）

・その弁護士に利用者は直接連絡できるような周知がされているのか。

（回答）

→利用契約書に第三者委員会として弁護士の名前と連絡先が明記されている。

（委員）

・第三者委員の概念が少し違うように感じた。本来は団体の中に置くのではなく
て、団体とは別の組織として置くのではないか。

（回答）

→弁護士の方は外部の法人の方であり、その弁護士の方を中心に第三者委員会が組
織されているという認識である。

（委員）

・会社の顧問弁護士ではないということか。

（回答）

→そのとおり。

（委員）

・本来であれば、外部に第三者委員会を設け、なにかあったときには直接聞き取り
を実施されることを想定している。電話だけのやりとりではなく、本人とお会いし
事実確認などを第三者として行うことが出来る体制が求められるかと思われる。

（委員）

・報酬改定によって「地域連携推進会議」を開くことが求められているが、現時点
で考えていることがあるのかお聞きしたい。事業報告時に男性棟に女性の支援者が
入ることがあると言っておられたが、現時点でそれくらいの割合で同性介助が実施
できているのかお聞きしたい。自立支援という観点から GH から一人暮らし等に向
けて支援をしていくことも求められているが、両施設の中でそういったニーズのあ
る方がおられるのか、そういったことが可能だと思われる利用者がおられるのかお
聞きしたい。

（回答）

・地域連携推進会議に関しては、法人一括で取り決めなどを作っており、現時点で

は具体的な内容は現場には降りてきていない。今年度の7月途中からは、長浜高月町において同性介助の割合は10割となっている。長浜高月町において今後、自立生活を考えておられる方は大多数おられる。GHを利用されている方に、精神しょうがいの方が多くおられる。ADLは自立されているため、一定の支援が提供できれば地域での生活も可能だと考える。そういった思いを持っている方は、3人ほどおられ、ゆくゆくは一人暮らしをしたいとおっしゃっている。GHとしても、地域での生活を後押しするための支援をおこなっているという想いに間違いはない。

（委員）

・GHが終の棲家になってほしくないという個人的な思いもありつつ、GHを利用される方がいないと経営が成り立たない。GHから地域移行をすることが経営面を考えた時に成り立つのかという疑問がある。ただ、一人暮らしをしたいというニーズがあった時には、GHだけで対応するのは大変なので、自立支援協議会とも連携していけると良い。

（委員）

・指定を受ける際に「日中サービス支援型共同生活援助の指定に関する確認書」にもあるように、収支計算等はなされたうえで運営をされているかと思うが、日常的にホームの運営に関して他のGHの管理者など、日常的に相談できる場所があるのかお聞きしたい。

（回答）

→全国に多くのホームを運営している。経営面では全国で運営しているノウハウを得ることはできている。

（委員）

・実習生やボランティアなど外部からの目をもっと積極的に入れていただきたい。消防訓練などの実施についても実施されているのか。消防署の職員などの同席のもと実施されているのかなど、災害はいつ何時起きるかわからないので、日頃からのつながりを大切にしていただければ良いかと。また、第三者委員会について、身近な地域の方で構成されると良いかと思う。

（回答）

→虐待通報のフローに関して、ホーム独自で作ってはいけないという決まりはないので、この場で頂いた意見を元に独自で作っていくことも今後実施し、スタッフへも周知したい。

（委員）

・利用者への健康管理について、ホームで把握している健康状態についてご家族等にフィードバックされているのか。

（回答）

	→ご家族への報告として、例えば体重等に変化がなかった場合に報告していない。今後、変化がないという良い意味での報告も今後検討していきたい。 (委員) ・地域との関りについて、溝掃除や草取りに職員が参加していると報告があったが、利用者が地域と関わりを持つ場が重要である。地域にイベントがないと報告されていたが、もう少し広い範囲で考えてみるといろんなイベントが実施されている。そういったイベントに利用者が参加することで、地域の方とのコミュニケーションの機会を設けることができる。そういった意味も込めて地域へ積極的に参加していただけると良いのではないか。 (回答) →地域へのイベントへ利用者が参加するという意味をしっかりと理解した。今後積極的に取り組んでいきたい。 5. その他 ・会議録を作成し、4週間以内に事業者へ送付。 ・次回は1年後の予定。 (会長のひとこと) ・いろんな意見や提案がたくさんありました。来年に向けて良い改善になればうれしく思います。よろしくお願いいたします。
--	---